

デジタル田園都市国家構想交付金事業の 効果検証結果について

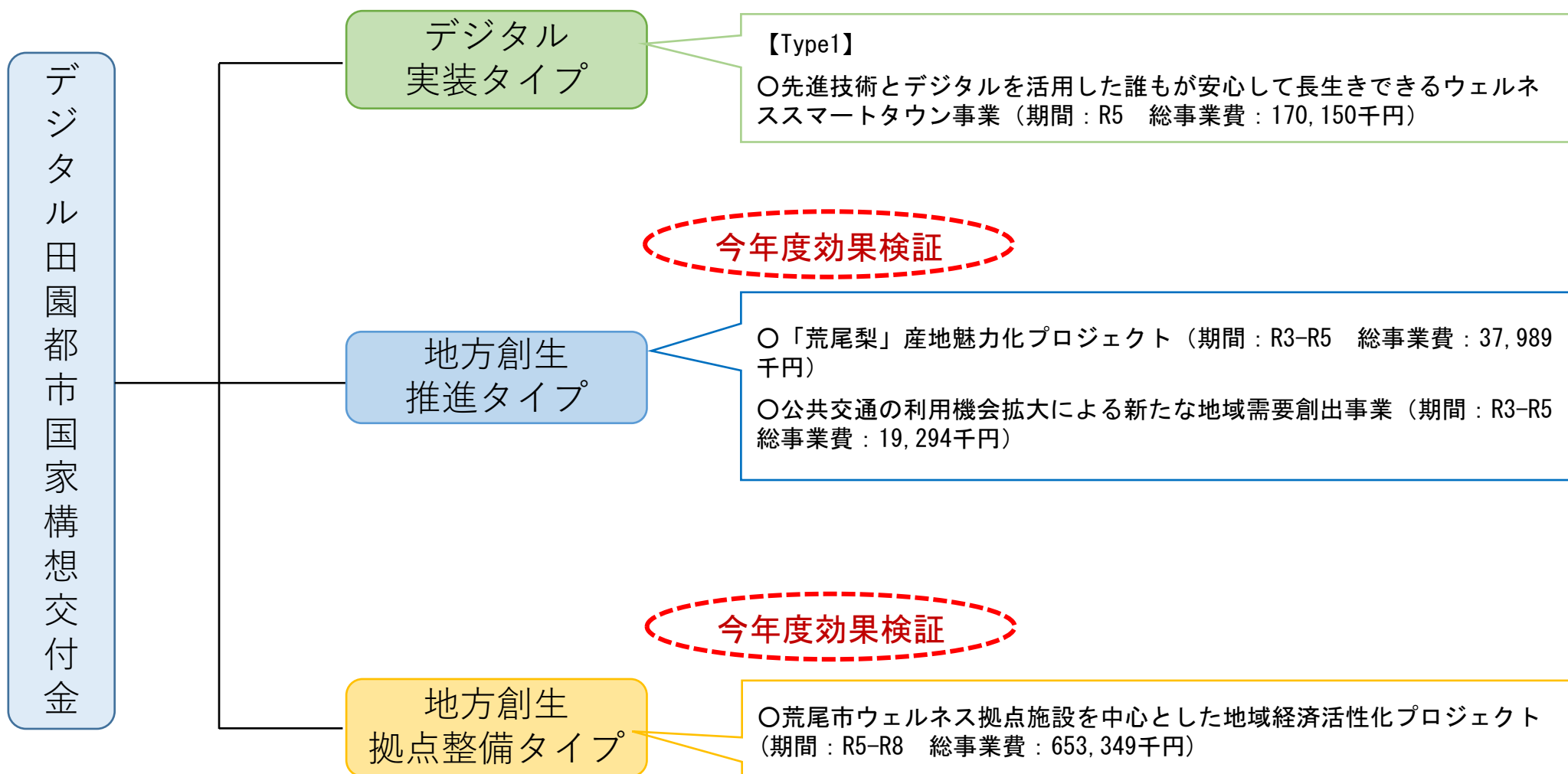
令和6年8月8日

令和6年度 荒尾市総合計画審議会

<デジタル田園都市国家構想交付金>

デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組や拠点施設の整備などを支援するもの。

本交付金を活用している事業については、毎年度、総合計画審議会において事業の効果検証を行うこととしている。



デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

公共交通の利用機会拡大による新たな地域需要創出事業（期間：R3～R5）

（担当 総合政策課）

R5総事業費：2,277千円

事業の内容

AIを活用した「おもやいたクシー」の利用促進を図りながら、公共交通利用者の利便性向上を図ることで、公共交通全体の利用者増を図る。また、移動と関連する医療・介護、商業、観光分野といった様々な政策分野との連携により、高齢者支援・子育て支援など市民生活を充実させつつ、コロナ禍に適応しながら効果的・効率的な事業を開発、実施することで、暮らしやすい社会環境の整備とまちの賑わいの両立に繋げる。

公共交通利用促進・観光促進事業

【目的】

おもやいたクシーの利便性向上を図るため、交通アプリケーションの導入を行う。また、各種交通機関のキャッシュレスによる事前決済等を可能とし、感染症対策にも資するため、導入に向けた検討を行う。さらに、交通分野のみならず、子育て支援メニュー、観光客向けコンテンツの機能の搭載により、各政策間連携を見据えた新規事業の検討、立案に幅広く活用する。なお、高齢者世代には公民館単位でのスマートフォン教室の開催を実施する。

【R5の取組】

観光×交通アプリ「おでかけあらお」については、おもやいたクシーの予約以外の用途として、市内ではデジタルスタンプラリーや介護予防ポイント付与で活用した。また、市内高校生が主催するスマートフォン教室とも連携し、アプリの普及啓発等に努めた。



あらお健康手帳を活用した受診環境改善事業

【目的】

地域包括ケアの推進を図るとともに、おもやいたクシーの利用促進を図るため、荒尾市医師会が作成した「あらお健康手帳」を活用し、受診環境の改善を図る。

【R5の取組】

「あらお健康手帳」の市民への普及啓発を図るため、市と医師会が連携し、市内の各医療機関や各種出前講座等で配付した。また、地域包括支援センターでは、所属のケアマネージャーが担当する利用者に対し、健康手帳を配付した。



デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

公共交通の利用機会拡大による新たな地域需要創出事業（期間：R3～R5）
（担当 総合政策課）

KPI（重要業績評価指標）

	KPI名称	R2(基準年)	R3	R3増加目標	R3増加実績	R4	R4増加目標	R4増加実績	R5	R5増加目標	R5増加実績
KPI1	居住区域誘導比率（％）	58.95	58.98	0.05	0.03	58.86	0.10	-0.12	59.00	0.15	0.14
KPI2	アプリダウンロード数（件）	—	74	200	74	1,179	300	1,105	2,377	400	1,198
KPI3	あらお健康手帳交付件数（件）	300	756	800	456	1,856	900	1,100	2,297	1,000	441
KPI4	AIオンデマンドタクシー利用者延べ人数（人）	3,000	11,830	2,000	8,830	13,910	3,000	2,080	16,397	4,000	2,487

KPI（重要業績評価指標）の考察と今後の改善方針

居住区域誘導比率は、R5増加目標0.15％に対して、実績は0.14％増であり、わずかに目標値に届かなかった。

R4.3には、観光×交通アプリ「おでかけあらお」をリリースした。本アプリでは、おもやいたクシーの予約機能をはじめ、公共交通移動の主な目的である買い物や通院の情報を掲載している。また、観光機能として、観光に関する情報発信や、デジタルスタンプラリー機能及びデジタルクーポンの機能を搭載している。R3年度末の運用開始当初は、アプリダウンロード数は伸び悩んでいたが、地道なPR活動等を通じて、KPIを達成した。R5年度には、本アプリを活用した介護予防ポイント事業を開始し、KPIの達成に寄与した。

あらお健康手帳交付件数については、増加目標1,000件に対して、441件増であり、目標値に届かなかった。R5年度も、いきいきサロン等の高齢者が集う場での啓発や、市が実施する出前講座等で配付したものの、同事業の参加者には、ある程度周知ができたものと考えられるため、今後、新たな配付先を検討する必要がある。

AIオンデマンドタクシー「おもやいたクシー」の利用者延べ人数については、コロナ禍以降も順調に利用者が増加しているものの、増加目標4,000人に対して、2,487人増であり、目標値に届かなかった。今後、モビリティ・マネジメントの実施をはじめ、「おでかけあらお」の機能の一つであるおもやいたクシー予約機能の利便性に関する情報発信等を強化し、さらなる利用促進を図る。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

「荒尾梨」産地魅力化プロジェクト（期間：R3～R5）

（担当 農林水産課、すこやか未来課）

R5総事業費：11,850千円

事業の内容

「荒尾梨」は荒尾市を代表する特産品であり、九州最大級の梨の産地となっている。昨今の気象災害や社会情勢の変化等に対応していくため、「荒尾梨」の梨農家・JAたまな・荒尾市が一体となって、「荒尾梨」のマーケティング戦略を策定し、ブランド開発やECサイト等を活用した販路拡大に取り組むことで、梨農家の経営の安定化、農業所得の向上につなげ、持続可能な梨の産地を目指す。

また、道の駅整備を契機に、市内飲食店や地元高校と連携した地産地消・食育を推進し、地域経済の活性化、郷土愛の醸成、交流人口の拡大等につなげる。

荒尾梨販路拡大推進事業

【趣旨・目的】

梨の産地として継続させていくため、梨農家・JA・荒尾市が一体となって、戦略的に新たな販路を開拓することで、梨農家の経営安定化及び農業所得の向上につなげる。

【R5の取組】

テレビや新聞等のマスメディアに対して訴求力のあるプロモーションイベント（収穫発表会、アミュプラザとのコラボフェア）を実施し、荒尾梨の知名度向上や魅力発信を図った。また、ブランドサイトを整備し、荒尾梨ブランドの定着につなげた。



市内高校との食育推進事業

【趣旨・目的】

市内の若年層や子育て世代に対しての食に関する実態調査結果を踏まえて、食事習慣の課題解決のための食育の取組を行い、若い世代の食生活の改善につなげる。

【R5の取組】

高校生食育アドバイザー事業では、初年度の6人から29人に受講者が増加した。生活習慣病予防に重点を置き、高校生の学習を毎月1回実施し、1月には学習の成果発表会として、市民向けの講話・体験の食育イベントを実施した。



農家と飲食店等との直接契約推進「地産地消フェア」実施事業

【趣旨・目的】

生産者と飲食店等とのマッチングを行い、市内農水産物の直接取引による地産地消を推進することで、生産者の所得向上や地域経済の活性化等につなげる。

【R5の取組】

荒尾産の農水産物をテーマにした地産地消フェアを開催した。

日時：令和6年2月23日（金・祝）11時～15時

場所：ゆめタウンシティモール2階テラス

出店数：6店舗

来場者数：約500人



荒尾市の農業・就農に関するアンケート調査事業

【趣旨・目的】

福岡・熊本都市圏の個人や法人に対して、本市での就農や農業に関するアンケート調査を実施し、ニーズの把握を行った。

【R5の取組】

調査期間：令和5年8月～9月

調査対象：個人：福岡都市圏の男女10,000人

法人：福岡・熊本に本社を置く570社

調査項目：個人：本市での就農に関する興味・関心、農業を行う上での課題等

法人：本市への農業参入に関する意向、農業事業を行う上での支援制度の要望等

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

「荒尾梨」産地魅力化プロジェクト（期間：R3～R5）
（担当 農林水産課、すこやか未来課）

KPI（重要業績評価指標）

	KPI名称	R2(基準年)	R3	R3増加目標	R3増加実績	R4	R4増加目標	R4増加実績	R5	R5増加目標	R5増加実績
KPI1	荒尾梨共販販売額(千円)	20,837	21,925	563	1,088	11,454	1,000	△10,471	14,781	1,000	3,327
KPI2	荒尾梨共販出荷量(トン)	27.56	25.25	1	△2.31	11.53	2	△13.72	21.86	2	10.33
KPI3	新規就農者数(人)	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0
KPI4	道の駅出荷意向農水産物見込額(千円)	15.6	16.6	1	1	18.1	1.5	1.5	20.0	1.9	1.9

KPI（重要業績評価指標）の考察と今後の改善方針

荒尾梨共販出荷量・販売額については、ブランドプロモーションにより、新ブランドの主力品種である「あきづき」の販売単価をあまり落とすことなく、出荷量と販売額の増加につなげた。荒尾梨販売額のうちシェアの大きい「新高」については、R4に晩霜被害を受けて生産量が大きく減少していたが、一定程度の回復を図ることができた。

荒尾新ブランド「ことのみ」収穫発表会やJR熊本駅「アミュプラザ」とのコラボフェア等のブランドプロモーションの実施やブランドサイトの整備等を行うことで、「ことのみ」ブランドの浸透や知名度の向上、魅力発信につなげた。

また、生産面での対策として、火傷病による輸入花粉の使用禁止を受けて、県補助金を活用した自家花粉の生産推進に係る設備投資支援を実施し、生産体制の強化を図った。

令和6年度では、更なるブランドの深化を図るため、糖度計等を導入し、ブランド基準の設定等の協議を関係者と連携して行っていく。

地産地消の推進については、生産者と飲食店との直接取引を推進するため、荒尾産の農水産物をテーマにした地産地消フェアを開催し、荒尾産の農水産物の魅力発信や地産地消を推進につなげたことで、地元農水産物の販売拠点となる道の駅への出荷意向見込額が増加した。

令和6年度も引き続き、ゆめタウンシティモールと連携した地産地消フェアを開催し、地元飲食店等と生産者の交流の機会や、地元農水産物を購入できる機会を創出することで、道の駅への出荷意向者や出荷農水産物見込額の増加につなげる。

新規就農者の増加はなかったものの、就農相談や若手農業者との意見交換の際に、本事業やその他各種支援制度の紹介等を行った。今後も、関係機関と連携して新規就農者のフォローアップや更なる就農者の増加を本事業を通して図っていく。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ（ソフト事業））事業

荒尾市ウェルネス拠点施設を中心とした地域経済活性化プロジェクト（期間：R5～R8）

(担当 産業振興課)

R5総事業費：2,986千円

事業の内容

ウェルネス拠点施設は、地域活性化拠点施設と同地区内に整備を検討している保健・福祉・子育て支援施設の複合化施設として整備するもの。

そのうち、地域活性化拠点施設については、物販・飲食施設における地場産品の販売等を通して生産者等の所得向上、地産地消の促進による地域内経済の循環の推進、保健・福祉・子育て支援施設との連携による健康増進や子育て支援機能、広域も視野にいたれた防災拠点機能、南新地地区に立地する周辺施設との連携により新たな価値を創造する機能など、あらゆる施策や取組を推進する施設として整備する。

荒尾市ウェルネス拠点施設基本設計委託事業

【目的】

事業全体としてPFI（BT0）方式を採用しており、詳細設計前の基本設計業務を委託している。

地域振興及び地域発信施設の機能と公共性を重視する保健・福祉・子育て支援の機能を差別化し双方の施設を交流空間によって緩やかにつながるゾーニングを確保しつつ、各施設の地域経済拡大や健康増進、子育て支援等の効果を発揮させていくため基本設計内で以上の内容を反映し、円滑な詳細設計作成に進めることを目的とする。

【R5の取組】

- ・基本設計図書の作成
- ・PFI事業者との設計協議



デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ（ソフト事業））事業

荒尾市ウェルネス拠点施設を中心とした地域経済活性化プロジェクト（期間：R5～R8）
（担当 産業振興課）

KPI（重要業績評価指標）

	KPI名称	事業開始前 （現時点）	R5	R5増加目標	R5増加実績	R6	R6増加目標	R6増加実績	R7	R7増加目標	R7増加実績
KPI1	物販施設における年間売上（円）	0	0	0	0		0			0	
KPI2	物販施設におけるレジ通過者数（人）	0	0	0	0		0			0	
KPI3	物販施設への出荷者数（実人数（人）	0	0	0	0		0			0	
KPI4	当該施設の整備を機に新規に就農漁業や起業をする者の数（人）	0	0	0	0		1			1	

	KPI名称	R8	R8増加目標	R8増加実績	R9	R9増加目標	R9増加実績
KPI1	物販施設における年間売上（円）		413,000,000			80,000,000	
KPI2	物販施設におけるレジ通過者数（人）		310,000			70,000	
KPI3	物販施設への出荷者数（実人数（人）		150			20	
KPI4	当該施設の整備を機に新規に就農漁業や起業をする者の数（人）		1			2	

KPI（重要業績評価指標）の考察と今後の改善方針

令和8年度のオープンを予定しており、それぞれのKPI増加目標を達成することが現時点での目標である。R6年度から詳細設計及び工事着工への事業が開始されるため、基本設計の反映のチェック及び、オープンに向けたスケジュール管理の徹底など密度のある協議を行っていく。また、物販施設の出荷者数や新規就農漁業者を増やすために広報誌やSNS等のオンラインの活用、出荷者・起業希望者との意見交換会等のオフラインの実施を図る。